

# 名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2022年 12月 8日

学部・学科名 外国語学部 英米語学科

担当教員氏名 Philip Rush

1. 区分	中期留学 ・ 語学研修 ・ 海外実習
2. プログラム名称	英米語学科 中期留学
3. 渡航先国名	ニュージーランド
4. 派遣期間	2022年 9月 3日(土) ~ 2022年 11月 27日(日) 86日間
5. 派遣先教育機関名	フィティレイア・コミュニティ・ポリテクニク
6. 参加学生数	16名
7. 派遣目的	英語を母語とするニュージーランドで、集中的に英語を学びコミュニケーション能力の向上を図るとともに、インターンシップとホームステイを通じ、現地の風土・文化に触れ、異文化理解を深める。また、卒業後の進路選択に繋がる職業上の経験を得ることを目的とする。
8. 派遣内容	9週間の語学学習を受講し語学力を高めたのち、語学学習だけでなく、そこで学んだ知識を活かしつつ、実際に海外で働くインターンシップを行う。具体的には、ホームステイをしながら最初の9週間は英語集中コースで学び、1週間インターンシップに向けた準備講座 (Hospitality Program) を受講し、その後2週間のインターンシップを行う。
9. 成果	2022年度中期留学を通し、自発的に行動するようになったように見受けられる。実際に帰国後の学生からのレポートでは、留学生生活を有意義に過ごすため、自ら考え行動し、自分の意見を伝えられるようになったという意見があった。また、ホームステイを通じて、多文化理解を深めることができた学生が多く見受けられた。

	インターンシップは、多様性に対する理解を深めるきっかけとなった。また、実際に興味がある業界が自分に向いているかどうか、インターンシップを通じて理解することができたという意見もあった。
10. 備考	

以上

## 中期留学レポート

私は、9月から約3か月間、ニュージーランドでの中期留学に参加しました。

私がこのプログラムに参加することを決めたのは、語学研修に加えてホスピタリティ業界でのインターンシップが組み込まれていたからです。

私はこの2週間のインターンシップで、ウェリントン市内の5つ星のホテルで働き、コンシェルジュやウエイトレス、キッチン、ハウスキーピングの仕事を体験しました。最初は自分の英語力で接客ができるのかと不安を感じていましたが、同僚にコツを教えてもらったりアドバイスを貰うなどして楽しく接客をすることができました。お客様や同僚との会話を通して、日本との対応の仕方や求められていることの違いを感じ、自分の中で大きな学びになりました。

また、私はこの中期留学で文化の違いを理解することの重要性を実感しました。ニュージーランドは多文化国家であるために様々な国籍の方と会話する機会があり、その経験を通して、多様性を理解しているつもりになっているだけで、まだまだ自分の視野が狭いものだったということに気付かされました。

短い期間ではありましたが、自分の中で将来につながるとてもいい経験になりました。

## 中期留学レポート

今回の中期留学は自分にとって初めての海外、留学であり、多くのことを経験しそこからたくさん知識を得ることができました。

日本とは大きく異なる思考が多く、それを理解し受け入れるということに少し時間がかかりました。その一つとして、自分の意見や要求を自分が思っている以上にはっきりと伝えないと理解されないことです。日本では相手に意見するときは、相手のことを思いやるという考えで謙虚に自分を下げて伝えることが文化的かもしれませんが、現地ではその気遣いが逆に困らせてしまっている、と感じる場面が多いと感じました。ホストファミリーにも質問される際自分がすぐに答えられないため「Yes or No?」と、よく聞き直されていました。あくまでも日本だけで伝わる気遣いであり、このことに関わらず自分の思うことが全て世界で通用するわけではないのだな、と知るきっかけにもなりました。知識不足とまではいかないかもしれませんが、より視野を広く持ちその場の生活にできるだけ早く馴染める心の強さが必要だと学びました。

加えて、何もわからない未知な世界に留学生として飛び込み、生活するということはたくさんの方のサポート仲間がいなければやり遂げることができなかつたことだと強く思います。20歳という歳で子供ではなく大人と判断される年齢でありながら現地では自分たちは無気力で、というギャップに精神的に追い込まれた時期もありましたが、その辛い時期を乗り越えられたのは、間違いなく仲間たちの存在が大きかったからです。英語を使って100%満足いく意思疎通ができないもどかしさ、留学で得ることができるお互いの経験値と思い描いていた現地生活との差など、日本から飛び出してきたからこそその苦痛を味わえたことが大きな経験であり、そこから仲間と共に乗り越えられたことが自分にとっての財産の一つになったと思っています。

留学を通して学んだことは多くありますが、この二つが特に印象に残るものであったと思います。とても貴重な機会でこの心に残る経験ができたことに感謝をし、学んだことを今後の生活で活かしていけるよう努力していきます。

## 2022年度 中期留学

私がこの留学を通して1番学んだことは、自ら考え積極的に実行することです。

最初は、ホームステイ、現地の学校、インターンシップなどを多文化・多民族の慣れない環境下ですることによって不安を感じていました。いざ始まると様々な問題が起こり、海外だからこそぶつかる壁もたくさんありました。しかし、長々と頭を悩ませるのではなく、限られた時間をいかにどう充実させるかを常に考えるようになりました。信頼できる人に相談し、自分の思いを知ってもらい、行動に移したおかげで充実して過ごせたり、問題を解決することが出来ました。ホストマザーとは、自分で積極的にコミュニケーションをとる時間を作り、感謝の気持ちを言葉だけでなく行動に移すようにしたおかげで毎日一緒に料理や映画を見るのがルーティーンになり、8年半ホームステイの受け入れをしてきた中で今までで1番の生徒で別れが寂しいと言ってもらえました。

様々な壁にぶつかった時に自分に行動する力を与えてくれたのは、共に過ごして色々乗り越えた仲間でした。仲間がいてくれたおかげで心の支えにもなったし、自分にはなかった新しい考えを得ることもできました。この留学は、英語力はもちろん、自分自身を大きく成長させてくれました。

## 中期留学レポート

私が留学中最も苦戦したことはホテルでのインターン経験です。Food&Beverage、Kitchen、Concierge、Housekeeping の4つの部署をローテーションで担当し、すべての役職の基礎を教わりました。中でも Food&Beverage と Concierge は接客する機会が多く、ホスピタリティの訓練をほとんど受けていない私たちにとって初日は何を話せばいいか全くわからないまま見様見真似でスタッフの後に続いて行動するしかない状態でした。帰宅してからは負けじとホテルやレストランでの接客に使える英語を調べて頭に叩き込んだおかげで、オーダーを受けるときや料理をサーブするときスムーズに対応できるようになりました。自分の力不足を認め改善するために努力したことがインターンでの成長だと思います。また今回の留学は英語力だけでなくメンタル面でも大きく成長する機会になりました。ホストファミリーや学校との間で不満や問題が発生したとき、自分の意見をしっかりと言葉にすること、人それぞれの考えがあるといったん受け止めることの大切さを再認識しました。

## 中期留学 終了レポート

中期留学を終え、私は様々な自分の弱みを知ることができた。英語力に関しては、授業や日常会話レベルの英語は聞き取れ、意味も理解できたが、自分の意見を具体的に話すことができないとわかった。日本では同じバックグラウンドで少し話し始めれば理解してくれる人が多いので、今までは私があまり具体的に話すことができていないことに気が付けなかった。また、私の発音はかなりアメリカなまりが強く、rとlの発音が区別されづらいことや、aの発音がoに似て聞こえることが多かったと指摘された。この点は弱みではないが、英語を使用して全世界の方とコミュニケーションをとる際には、気を付けなければならないと思った。

また、今回はNUFSの生徒と一緒に授業やインターンシップを行ったこともあり、日本人ばかりの状況下で、不意に日本語で話してしまったり、困ったときに日本語で会話してしまうなど、環境に甘えてしまったことも一つの弱みだと見つけることができた。この点について、私は出国前に怪訝していた点で初めの段階は気を付けていたが、結局怠けの心が勝ってしまったことで、自分の弱みが明らかになった。

しかしながら、弱みだけでなく今後につながる発見もあった。私はエンタテインメントやホスピタリティの道に興味があるが、それらを職として考えた時に私に合っているかを心配していた。そんな中、職業体験においてイベントセンターで大きな二つのイベントの設営や準備をさせてもらった。仕事内容としては決して簡単なものではなく、夜遅くまでかかる日もあった。体力的にもハードで正直大変だった。しかし、イベント最中に参加者から感謝をされたり、スムーズに対応できたりと少しずつの喜びが重なり、終了後には疲労を上回る達成感を感じることができた。エンタテインメントやホスピタリティの世界は地道で体力的にもタフな仕事だと認識できたと同時に、そんな中でも幸せ空間のために働くことに私も幸せを感じることができると知ることができた。これは今後、就職活動をしていくにあたって大きな軸になり、中期留学に参加した意味にも繋がると考える。

また、三か月で様々な困難もあり、その中で仲間と話し合い支えあうことの重要さも身に染みて感じた。今回の中期留学は英米語学科の仲間がいたからこそ楽しめたし、つらいことも乗り越えられたと感じているので、人生においての人間関係構築の重要さも学ぶことができた。

最後に、今回中期留学を経験し、世界や社会で生きていくことが簡単ではないことを学んだ。また、誰かに頼って身を投げるのではなく、自分から行動しなければ環境は何も変わらないことも学び、今後の人生への考え方が変わった。これから就職活動が本格的に始まる前に経験できてよかったと思っている。